

自己評価報告書(最終報告)

コース等名

社会系コース

記載責任者

立岡 裕士

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成の質保証

大学の機能別分化・機能強化が求められる中、本学は教員養成大学として高度専門職業人としての教員を養成することを目標としている。教員養成の質保証のため、専攻・コースではどのような取り組みを行うか、具体的な方策を示してほしい。

1. 目標・計画

教育内容の充実は、基本的に各教員が授業その他の教育活動の改善にかかっている。従来、社会系においては学生に対する修学支援の責任を各授業の担当教員や卒修論の指導教員ないし学年担任にのみ課することなく、たとえば修論・卒論の中間発表・論文発表会などにより教員が社会系全学生の知的関心の在り様を知りうる機会を設け、またFD活動における議論によって、全教員が教育活動に協同する体制を整えてきた。今年度もこうした制度的側面を維持するとともに、学校教育・大学教育の社会的機能に関して検討する場をさらに増やし、教員各自が継続的に教育活動の改善に取り組むようつとめる。

2. 点検・評価

修学支援やFD活動などにおいて、目標通りコース全体の問題として活動することができた。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

教育については、上記のように、学生および社会に提供する教育の質を一層向上させるべく努力する。
学生生活支援については、従来通り、社会系コースの教員が全体として学生に注意を払い、修学はじめ学生生活の諸側面において支援を要する問題があれば適切に対処できるようにする。
教育や学生指導に関わる問題については、従来、コース会議で報告・議論を重ねることによりコースの教員が問題を共有し全員が協同で解決を試みるようになってきた。この方法は有効に機能しており、本年度も問題が生ずれば従来と同様の形で対処する。

2. 点検・評価

目標通り進めることができた。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

社会系コースにおける研究体制に特に大きな問題はないと考えられるので、本年度も昨年度と同様に、社会系コースの教員各員がその研究活動を滞りなく進められるような体制を維持することに努める。そのため、研究のベースとなる研究予算の配分方法や利用方法などについてもさらに検討を進める。

2. 点検・評価

目標通り、各自が着実に研究を進めることができた。
研究費の配分方法などについても特に大きな問題はなかった。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

各種委員会や入試業務(学部および大学院)その他の大学運営に関わる業務をコースとして分担するにあたり、一部の教員に負担が集中することのないよう配慮しコース教員全体で協力して当たることに努める。

2. 点検・評価

目標通りに業務の配分が行われた。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

附属校との連携を緊密にし、相互の支援が継続的に行えるようにする。
公開講座・免許更新・教員十年次研修・教育支援アドバイザーなどの各種講座・講習を通して社会との連携をより緊密にする。
社会系コースに受け入れた留学生に対し、十分な学習や研究ができるような環境の整備を行う。

2. 点検・評価

附属校(特に社会科担当教員)とは教育研究発表会・教育実践フィールド研究をはじめとした種々の機会に、研究・教育両面で密接に連携した。
公開講座・免許更新・教員十年次研修・教育支援アドバイザーなどの各種講座・講習は予定通りに実施された。
社会系コースに受け入れた留学生に対しては、指導教員を中心に教育・生活の両面での支援をはかった。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

大学運営のために副学長2名を供出したほか、「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」事業その他の全学的事業に委員を出した。